
男の娘の恋愛事情

月月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

男の娘の恋愛事情

【Nコード】

N5078BA

【作者名】

月月

【あらすじ】

高校2年生の花峰綾乃は、幼馴染の白鳥葵に恋をしている。しかし葵は同じクラスに加藤渉君に恋をしている。さて、この二人のマッチガイとはいったい何なのでしょう？それとも何も間違っていないのでしょうか？

乙女の決心

このわたしはなみねあやの花峰綾乃には好きな人がいる！

その人はわたしの幼馴染で、今まで出会ったどんな人よりも素敵
な人なの！ その人のことを考えているだけで、胸がドキドキして
張り裂けそうになる。その人と話しているだけで、他のどんな時間
よりも幸せを感じることが出来る。その人のためなら何でもしてあ
げたいって思う。

まさにわたしは今、乙女のハート全開で恋している。この恋の炎は
地面の下に流れるマグマや、眩しく輝く太陽よりも激しく燃え上が
っていると確信している！

付き合いたい！付き合いたい！付き合いたい！でも勇気が出ない
……わたしは臆病者だ。あの人は本当に素敵な人だから、ぐずぐず
していたら誰かに取られるかもしれない。

だから善は急げ！恋も急げ！（あれ、焦っちゃ駄目なんだっけ？）
告白も急げ！でも囁むな！ということとで高校2年生の5月、わたし
は決心している。

あの人に告白しよう。この思いを伝えよう。

……でも困ったことが一つある。

あの人にはもう好きな人がいるってこと。

藤崎綾乃の好きな人

(女は度胸！恋は先手必勝！女は度胸！恋は先手必勝！……)

登校中に心の中でそう自分に言い聞かせながらわたしは歩いている。今日こそ、本当に今日こそはあの人に告白すると心に誓って。

「……どうかしたの綾乃？何かそわそわしてない？」

横を歩いていた早紀^{おさき}ちゃんが声をかけてきた。

「あ、わかつちゃうかな？わたしがそわそわしてるって」

「うん、なんだかトイレの順番待ちでまだかまだかとそわそわしてるサラリーマンの中年オヤジみたい」

「そんなー！恋する乙女に向かってその言い草はひどい！」

早紀ちゃん、本名は七瀬^{ななせ}早紀^{さき}ちゃんは高校で知り合った友達だ。一緒にのクラスで、席が近かったからすぐに仲良くなった。

「恋する乙女って……綾乃って好きな奴いるの？」

「もちろんいるよ！そして今日告白するんだよ！」

「……ええっ！そうなの！？あたし全然気がつかなかった」

「それは当然だよ早紀ちゃん。女の子は自分の胸の中で恋する気持ちをひそかに燃やし続けるんだから。そして告白すると決めたとき

にその炎はさらに燃え上がるんだよ!」

「そしてそのまま灰になっちゃうわけね、真っ白な灰に」

「ひどい!」

あははは、と早紀ちゃんは声を上げて笑った。早紀ちゃんはちょっとイジワルだ。わたしはいつもからかわれている気がする。わたしのほうも何かと言いつ返しては見るもののいつも言い負かされてしまう。私よりも一枚も二枚も上手だ。

「でもまあ綾乃ならうまくいくでしょ。断るやつなんてそうはいないって」

「え?」

意外な言葉が返ってきた。いつもの早紀ちゃんの性格からしてもっといじられるかも思ってたから。

「どうしたの早紀ちゃん?なんからしくないこといってるけど?」

「だってあんたはあの花峰綾乃でしょうが。柏木高校の彼女にしたい生徒No.1、嫁にしたい生徒No.1、マジ天使な生徒No.1の三冠王でしょ?男なんてよりどりみどりでしょーが」

「……それは恥ずかしいからやめてよお」

贅沢な話だと思っけど、どうやらわたしはモテるらしい。何でかは自分でもよくはわからない。正直わたしより美人な人や、可愛い人なんてそれこそよりどりみどりに思える。たとえば目の前の早紀ち

やんとか。でも何を間違ったのか、この学校では早紀ちゃんと言ったようにわたしが三冠をとってしまった。……正直あまりうれしくない。

「去年の卒業式なんてもう伝説よ？」

「うっ……それわたしにとっては軽くトラウマなんだけど……」

「いやいや、トラウマなのは降られたほうでしょ」

去年の卒業式。つまりそのころわたしはまだ一年生だったわけだけど、その日に卒業する三年生の人たちに告白されたのだ。その……まあ……47人に。

いままで同じ日に複数の人に告白されたことはあつたけど、それでも2、3人位だったから、さすがに疲れてしまった。2、3人どころか3人同時に告白されたりもしたし……。断つても断つても次から次へとやってくるから、気持ちは嬉しいけど、少し嫌にもなってしまうた。

「まあきつとどうせ卒業だから最後に華々しく散ってみようと思つたんじゃない？」

「気持ちは嬉しかったけど、やっぱり付き合つとかは考えられなかったから」

「黒崎先輩も振つちやつたもんねあんた。あれが伝説の一番の原因でしょ」

黒崎先輩とは去年の卒業生の一人だ。そしてわたしに告白してきた

最後の一人でもある。先輩は去年生徒会長を勤めていて、容姿端麗、成績優秀、文武両道とすごい人だった。しかもすごく誠実な人で、柏木学園彼氏にしたい生徒No.1の人でもだった。私の目から見ても、かっこいい人だったし、尊敬できる先輩だった。

まあその人も振ってしまっただけけど。

「そもそもわたしは黒崎先輩とあまり話したことなかったから。よく知らない人とは付き合えないよ」

「ま、そうかもね。……って、その理屈でいくと綾乃の告白する人ってお互いによく知ってる同士なわけ？」

「うん、えつとね……」

「綾ちゃん、早紀ちゃん！」

突然後ろから声をかけられた。それと同時にわたしの心臓がドキッとする。振り返らなくてもわかる。この声はわたしの好きな人の声だ。この声を聞くだけで最近はとても嬉しくて幸せな気分になっていた。でも今日はドキドキが止まらない。顔が真っ赤になっているのがわかる。でも少しでも早くその人の顔が見たくてわたしは振り向いた。

振り向くとその人は笑顔でたっていた。長い髪は相変わらずサラサラしていて、スカートから見える足はともきれいだなんて思ったりもした。

告白すると決めたその日、わたしは今日初めて葵ちゃんに……白鳥あおいちゃんにあった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5078ba/>

男の娘の恋愛事情

2012年1月14日00時55分発行